

4/16～22 写真展アンケートより

たくさんの人にぜひ見てもらいたいです。(40代 男性)

福島で大変なことが起きていても自分の身において考えられず、申し訳ない気持ちです。でもまだ電気を使うところが多すぎる。少しは考えてほしい。まだまだもっと大変になるのでは？(60代)

放射能の様々なことを日本ではあまり知ることができないので不安です。(60代 女性)

福島の学校運営の基準値と「死の町」プリピャチの線量がほぼ同じというのはショック。ソ連、ロシア等の共和国は一党独裁だからマフィアが牛耳っているから、etc.と人権の抑圧されたとんでもない国だと報道されてきたのが、実は日本の方がひどい国だということをはっきり突きつけられてしまい、何十年も日本の大人だった自分がいかに愚かで怠けものだったか慙愧に耐えないと痛感した。(50代 女性)

通りすがりと書きましたが、ポスターを知っておりました。4/22 のシンポジウムにも参加予定です。そこで率直な意見を楽しみにしています。(20代 男性)

動物の姿を目にして本当にひどさを実感。今も苦しんでいる人たちに対して何かをしなければと思います。(60代 女性)

福島の現状に気持ちが沈み、チェルノブイリのことを嘆き、人間の行きつく所のおろかさに先がないと思う。でもどこかに明るい見通しが見つからないのでしょうか。今の政治家や一般の人々がもっとしっかり先を見つめて行動しよう。(60代 女性)

原子力は人類には扱いきれないものですね。その知恵を大人が持たないと。(40代 男性)

現実の写真を見せていただいて何も支援できない多くの人々の中の自分を反省しました。(60代 男性)

福島、チェルノブイリともに撮影場所とそのときの放射線量がわかると、一段と迫力ある展示になったと思う。(60代)

政府が隠そうとしても写真はありのままを私たちに知らせてくれます。写真の力強さに気づかされました。ありがとうございます。(40代)

「私の順番がきたわ」と母親に告げて亡くなった女の子の写真を見て辛くなりました。原発からのエネルギーで人間は多くの恩恵を受けてきたわけだけども、同時に多くの人の命をなくしてきたことを忘れてはいけなと思いました。「忘れること」は絶対にあってはならないなと思いました。(20代 男性)

知らなくてはいけない事実は積極的に手に入れていかななくてはならない。こういった写真は、その惨状を知る大変良いきっかけとなる。何よりも胸にくるものが多い。何かしたい、と考える人間はまずこういった写真展などに参加するべきだと思った。ありがとうございました。(20代 男性)

福島の様子はテレビなどを通して知っていたが、チェルノブイリのことについてはほとんど何も知らなかったので、こうやって知る機会を得ることができて嬉しい。チェルノブイリの”今”について少し興味が湧いた。(20代 男性)

私の子どももまだ小さいのでとても心配です。写真を見ると心が痛みます。(40代)

写真を通して感じるものが大いにありました。(20代 男性)

ドレスを着た少女の写真に胸がつまりました。チェルノブイリで起こったことも、福島で起こったことも実感が無い私に気づかされました。(30代 女性)

写真で見ると新聞などで読むのとはやはり違った強い印象をうける。(50代 男性)

報道がいかに重要か、恐怖さえ覚えた。(30代 女性)

チェルノブイリ事故の写真展を見て非常に驚きました。日本もこれにならぬよう願っています。(70代 男性)

隣の世界みたいな気がします。理解できないけれど、でも人としてすごくすごく悲しい。(女性)

以前から存じあげてはいたが、見方が浅く自分の体験になっていませんでした。福島以後、あらためてチェルノブイリの惨状、広島・長崎に想いをはせるようになりました。恥ずかしながら、遅くともしないよりまし。(50代 男性)

悲惨な状況が一目でわかりました。原発と共存するには、理工学の発展が必要だと再認識した。(20代 男性)

写真一枚が真実を語ります。TV、マスコミがなかなか取り上げないことを実感します。(30代 男性)

人間自らがコントロール出来ないものは造り、利用されるべきではない。原発への結論。(70代 男性)

長い歴史をみても国とか会社とか大きな団体になると人はどうして同じ過ちを繰り返すのか？1人1人個人として付き合えば良い人たちが多いのに、人間は心の中に神と悪魔がすんでるのか？と思ってしまう。これから人類はこのような過ちを続けていくのかしら？(60代 女性)

展示数は少ないように感じたが、1枚1枚が恐ろしい。このような事故のないよう祈るしかないのでしょうか...(30代 女性)

チェルノブイリの事故区にまだ人が住んでいるとは！？他のエネルギーを考えていかねば...(30代 女性)

被曝したかもしれない子どもたちの不吉な未来を見るようです。久米島での受け入れは興味深いです。こういう場所は今後必要とされるでしょう。(50代)

これからの日本もこうなる可能性があることを改めて感じた。(30代 女性)

小さな子どもを持つお母さんたちの要望で学習会を開いています。これからの参考に他の国のことも知って、放射能について正しい知識を得たいと思います。(60代 女性)

美しい自然、でもひどく汚染されているんですね。可愛い子どもたちも... チェルノブイリの悲しみ、叫びを心して受け止めなかった私たちに、重い課題が与えられました。チェルノブイリ、そしてロシア、世界の人たちと共になっていこうと思います。(女性)

福島5年後、10年後の子どもたちの健康がとても不安です。低線量被曝の恐ろしさをもっと知らせなければと思います。1年を過ぎ、東京では日常が戻りつつあるように見受けられますが、若い子どもを持つ母親は毎日公園で遊ぶときにいいのかしら？と思いながら遊ばせていると話しています。私もできることからやっていきたいと思っています。ありが

とうございました。(60代 女性)

日本にも同じ脅威がきているとヒシヒシ感じました。(20代 男性)

私も小学生の娘がいるので、子どもの犠牲者には本当に胸が痛くなります。これ以上の悲劇がくりかえされないよう肝に命じていきたいと思います。(40代)

昨年、日本キリスト教会館で広河隆一氏の写真展(チェルノブイリ)を観ました。今年もチラシをみて明大まで来ました。若い学生たちに観てもらいたいと思います。私が大学生の時、チェルノブイリの事故がありました。もう二度とくり返してほしくないと思っていましたが、フクシマの事故が起きてしまいました。責任を痛感しています。(40代 男性)

原発や放射能のおそろしさを新ためて実感しました。放射能は目に見えないので、自分の体がどの程度、害を受けているのかを把握することができず、いつの間にか死んでしまうということもあるということに恐怖をおぼえました。(20代)

原子力発電はこの写真展を見せてもらって止めてほしいと思いました。特に日本は地震の多発国ですので、福島のようなことを二度と起こさないようにしなければ子どもたちの未来が心配です。(70代 女性)

広河さんの活動には注目しています。こうして大きな画面で写真を見ますと、新たに<チェルノブイリ>も<双葉地方>も発見があります。時間が過ぎても解決されない傷に思いを向ける必要をまた感じました。一週間は短いので広く展示を期待します。(70代 男性)

前回早稲田の写真展に行ったのですが、ざっと見たという感じでしたので、今回あらためてみると、写真のはしばしにいろんな意味が読み取れるということがわかりました。原発の恐ろしさや人々を荒廃させてゆく事故後の真実について、まだまだ知らないことや知らされないことが多すぎると感じます。写真の力について、やはり素晴らしいとも思いました。このような写真展をずっと続けていけるように。子どもたちが元気になりますように。(50代 女性)

チェルノブイリの事故時は正直言って他の国の問題と考えていた。今回福島原発事故で本当に原発の恐ろしさがわかった。やはり世界中から原発はなくすように運動を起こす必要があると考える。(60代 男性)

二度とこのような事態を起こしてはならない。原発即停止へと向け、活動を広めよう。(70

代)

東京の高校生平和ゼミナールの生徒が福島の子どもの実態を見てチェルノブイリを見習って医療・支援に役立てるべきという研究をしていました。今日の展示からそのことがよくわかりました。(70代 女性)

チェルノブイリの事故後の子どもたちの甲状腺ガン、健康被害など知られていますが26年間の事実をもっともっと日本人たちにも知らせたいです。福島の子どもの健康や生活を守っていきたくて、この1年間考えてきました。いろいろなところで少しずつ賛助していますが、この基金にも微力ながらお手伝いしたいと思います。まだまだ不安な状態ですので。(60代 女性)

いい写真をいい環境の中でみせていただきありがとうございました。場所を提供した大学にも感謝!!多くの人にPRします。(70代 女性)

参考になった。(40代 男性)

発表の場を確保することの難しさ、図書館でできるといいのですが。どうも資金問題にひっかかるのです。(70代 男性)

本当の事実を知ることが必要だと思います。今はなかなか知ることがむずかしいのでこのような写真展を企画してくださってありがとうございます。(60代)

デイズジャパン誌で見た写真もありましたがインパクトが違いました。子どもたちの健康を守りたいと思います。(40代 女性)

歴史から、チェルノブイリから学ぼうとしない現在の日本の政府に対して無性に腹が立ってなりません。国民全員でもっと声をあげるべきだと思っています。まずは自分にできることから...。(40代 男性)

永遠ともいえる放射能、原発は地球上からなくさなければいけません。(70代 女性)

フィンランドの「100,000年後の安全」の映画も見て、最終処理の地層処分の実態を知り、益々核燃料の使用は他燃料の最終物質、灰ではない、放射線を出し続ける物質なのですね。人工的に核燃料は使うべきではないですね。廃炉にするにも40年?かかり放射線を出し続ける「死の灰」の処置も最終的には実行段階に至っていない現実にアゼンとしています。(70

代)

放射能被ばくした子どもに発症する甲状腺がんを考えさせられた。放射線の種類、放射性物質、被ばく量により福島の子どもたちはチェルノブイリ原発で亡くなっていった子どもたちと同じような危険にさらされているのかどうか。原発暴走は止めねばならないが、汚染された自然に生活を依存する人々がいるのも現実。行政は放射能基準値を設定して終わりにせず、基準値の根拠を調査研究し、その成果を基準値に反映しなければならない。(60代 男性)

チェルノブイリの子どもが10年後に亡くなったこと、写真でよくわかりました。(60代 女性)

多くの人に見てもらいたい。福島の人たちに見せるため、巡回しているのか？(70代 女性)

話には聞いているチェルノブイリの惨状ですが、事故からその後の写真で見えるものは、福島の未来が暗くならざるを得ない状況に絶句します。現場はたいへんなこととは思いますが、早く避難してもらいたい... 早く収束してもらいたい。早くまともに世の中が動いてもらいたいと思います。(40代)

死の町プリピャチが4マイクロシーベルトで、福島の学校運営の基準値と同じというのが恐ろしい。事故当日プリピャチに来ていて10年後にガンが判明して亡くなった少女の写真を見ると、福島の子どもたちは...(50代 男性)

あらためて、放射能のおそろしさを知った。

原発は、たとえ電気が共有できなくなってしまってもやめるべきだと思った。

電気よりも人の命の方が大切。(10代 女性)

チェルノブイリ後に日本でこの様なことが起きるとは想像もしていませんでした。確かに人の手で始末できないものを生産しているのですから、起こり得ることが起きたんですよ！原発反対はこれからもしていきます。(50代 男性)

少女がチェルノブイリ事故後に10年経ってから甲状腺がんになりあっという間に亡くなってしまふ...写真を見て福島の子ども達の将来を思いました。一時の支援でなく、長期的な支援の必要性を感じました。(20代)

チェルノブイリでも福島でも、原発事故による放射能汚染は長期にわたり、人々の営みを破壊していく。チェルノブイリ近くの保育園跡にのこされた人形の上半身や、放射能によるガンで亡くなった少女の変わりはてたなきがら、廃墟を囲む植物などが強く印象に残った。(40代 男性)

何か Action をしたい！！と思っています。映画上映、Event など。企画屋なので発信していきたいです。他人事でない時代になっていくには、自ら何か動き出さねば！未来の子どもたちの為にも、私の為にも(40代 女性)

とても苦しい気持ちになりました。まだまだ現実から目をそむけている自分に気づき、このままではいけないと思いました。ありがとうございました。この活動に感謝をこめて。(女性)

チェルノブイリのことも、福島で起きたことも、今も起きていることを考えると胸が痛みます。無力感におそわれないうちの自分のできることを行っていきたいと思います。基金にも寄付させていただきます。ただ恐れるだけ、悲しむだけではなくきちんと行動にうつしていただきありがとうございます。(40代 女性)

チェルノブイリの子どもの様子にショックを受けました。チェルノブイリがあり、福島があり、それなのにまだ原発を止められないのはなぜなのでしょう。悲しみと怒りを感じます。(50代 女性)

チェルノブイリの実態は日本に全然伝えていないと思いました。とても大事な活動です。ありがとうございます。(30代 女性)

広河さんの現地入りは当時話題になって知っていた。私自身は福島市の実家で、事の推移をネットの情報でかたずを呑んで見守っていた。それから3月中に母と連れだって、まず新潟に逃げそして今は東京に居る。今でも推移を見守ることに変わりはない。いい写真でした。(50代 男性)

子どもたちがもっと支援を受けてもいいと思います。(50代)

チェルノブイリの実験を生かして、福島に万全の対策、対応をすべきでしょう。現政府、政治家にもこのことを知ってほしいです。(70代 男性)

ガンで死んでいった少女が哀れである。福島の写真がもっと見たかった。(60代 男性)

DAYS JAPAN を読んでいてこのことを知りました。今、日本もチェルノブイリと同じような状態であることを私たちは知っていないし、考えてすらいない方が多いと思います。汚染の状況ですらメディアはしっかりと伝えないまま、これから本格的にはじまるガレキの広域処理がとても心配です。(20代 女性)

あらためてことの重大さを思い知らされます。これ以上くり返すのはごめんです。(60代)

チェルノブイリから26年。そんなにたったとは。それにつけても子ども達がどんどんなくなっていくのはつらい。写真だけにとてもリアルです。(60代 男性)

チェルノブイリは避難できない人もいるということに驚きと疑問を感じました。日本の中でも避難できない人もいるのでしょうか？気になりました。(20代 女性)

広河隆一氏の写真展、初めて見ました。沖縄の久米島保養センターの話、とてもいいと思います。自分も機会があれば現地へ行ってみたいです。(50代 男性)

事故以来、福島のことを思わない日はありません。九州の出身ですが、県内に原発があり、他人事ではないと強く感じています。それに今は、原発事故のおそろしさと起こってしまったことはなかったことにできない、その現実のくやしさと、とり返しのつかなさに胸のふさがる思いと、一方で、では福島の方々の悲しみや苦しみ、健康面への不安や影響を最大限和らげ、とりのぞくためには何をすべきか、自分は何ができるかと自問し続ける思いの双方とで毎日生活のどこかで絶えずどうしたらよいか！！と考え続けてしまいます。今回貴重な写真を拝見し、福島の方々とともにチェルノブイリの地でのことへもいっそう注目しつづけ、できる応援をしたいと思うようになりました。資金面では苦戦のつづく身ですが、できる限りで行動したいです。長い闘いになるとと思いますが、自分のこれからの人生の中で一本、自分なりのかかわり方を保ち続けたいと思います。よい機会を設けて下さり、感謝申し上げます。(40代 女性)

未来の日本...福島を見ているようで、胸が傷みました。少女が10年後に甲状腺ガンになり、肺と脳に転移しており...その2か月後に亡くなったと言う写真を見て涙が出そうになりました。そう遠くない未来...どれだけの人が病気を患い、後遺症に悩まされなくてはいけないのか。私たちは、チェルノブイリの事故、そして今回の福島原発事故から、現実を自分の目で見て、自分で学ばなくてはならないと、強く思いました。今ある現実、事実を隠したり、見て見ぬふりなんて、もってのほかです。

これから生まれてくる子どもたち...次世代、未来の為に知らなくてはならないこと、やら

なくてはいけないこと、伝えなくてはいけないことは、いっぱいあるのです。時の流れと共に忘れて、危機感などが薄れていくこと程、怖いものではありません。

この写真展に来ることが出来、本当によかったです。

ここで感じたことを、周りの大切な人たちに...少しでも多くの人たちに伝えたいと思います。ありがとうございました。(20代 女性)

広河氏の名前はよく聞いていたが、実際の写真を見るのは初めてで、見れてよかったです。避難地域まで入って行ったりと、身体をはっての取材に敬意を感じました。視覚だとよくわかり、チェルノブイリの子どもたちも福島の子も放射能から守らなければと改めて思いました。(50代 女性)

衝撃的で言葉もありません。福島の10年後、20年後が本当に心配です。家族の分断、人の心の分断、放射能・原発は全てを分断させている。(30代 女性)

胸がいっぱいです。福島が「プリピャチ」にならないためには、私たちも考え、行動しなければ、と思います。(70代 男性)

福島事故に、広河さんがチェルノブイリ事故で撮影や調査をされた諸々が必ず生きてくると思いますし、そのようにしなくてはなりません。何世代も放射能と生きていかななくてはならないのですから...。その事が悲しくもあります。私たちは、これ以上、核の悪事を働いてはなりません。それが今に生きる私たちの使命です。(50代 男性)

チェルノブイリの経験を学び、活かしていかなければ。低線量被ばくし、抵抗力が減少した子らを一時的に避難させるだけでも抵抗力が増すということ、つい昨日知ったばかりです。大切な運動だと思います。(50代 男性)

自分自身はチェルノブイリを歴史の一事実としてしか知らず、もう過去のモノであるという認識を持っていた。福島の原発事故のこともあり興味を覚えたところにこの企画を知り、来ようと思いました。そこでチェルノブイリは終わっていないのだなと感じました。知らないままでいてはいけないと思いました。まだ自分の意識がこちらに向いている間は、色々調べ知っていきたいと思います。軽々しく「がんばって」とは言えませんが、できるだけことをして下さい。僕もその力の一助ができればと思います。(20代 男性)

チェルノブイリの事故から、日本は何も学んでいないのが残念でならない。ロシア人の知人がチェルノブイリから600km離れた所に住んでいたが、ロシア的にみれば近い所だとのこと。日本ではその感覚が全然ない。東京は福島から250km離れているが、もっとチェル

ノブイリの真実をみんなが知っていかないといけないと思う。福島の子どもたちの保養についても自分もできるところで協力していきたいと思う。(50代)

少し前まで遠くの国で起きた事故と思っていたが、去年は福島で起きた。チェルノブイリは数年後の福島だと思う。また写真展をやってほしい。(30代 男性)

切り取られた一瞬が時を経ても強く訴える力を持っていることが分かる。福島が風化する前に多くの方に見てもらえるよう願っています。ありがとうございました。(60代 男性)

一人でも多くの人に放射能が人体におよぼす恐怖を知ってもらいたいと思います。頑張ってください。(20代)

福島原発の3・4号機は、今あのような状態なのかと思うと、恐ろしさを感じた。何も知らないで普通に暮らしている自分に、写真はいろいろなことを教えてくれた。原発の怖さを改めて知った。(30代 女性)

私が説明しながら娘と拝見しましたが、プルトニウムが体から検出されている子どもがいるという話を聞いた娘が「じゃ、作んなきゃいいじゃん」とあっさり。作らなくて当り前という事が、未来ではそれが当り前になってくれるといいと思います。

20km 圏内から避難している者です。広河さん達の福島原発、国の原発の危険を国民に情報公開して広めていただいていることに涙がでる思いです。

東京に避難している間だけでも、私に何ができるか、実行していきたいと思います。(60代 男性)

大好きな福島、そしてその周辺のこれからがとても心配です。

正確な現状を伝えられるメディアがほとんどない中、このような写真展はとてもありがたいです。自分達で正しく見つめ、長い目で何かしていければと思います。(30代 女性)

チェルノブイリでは原発の放射能に曝されて、甲状腺手術を受ける患者がいてとても耐えられないものです。私の親戚は福島県南相馬市に隣接する相馬市にいて、親戚の奥さんの母親は原発の放射能に曝され重い病気で一刻を争い、父親は新潟に避難しています。震災や原発事故前に通った浜通りは通ったりすることが出来なくなり、山道から親戚の家に行ったりする事があります。(30代 男性)

チェルノブイリの少女の死には涙を禁じえません。原発再開への怒りが湧いてきました。

(70代)

チェルノブイリの事故の直後には募金や学校での生徒の取り組みなどを行いましたが、このところ油断していた矢先の福島の事故。チェルノブイリを知ることによって福島への私たちの関わり方を学ぶことができることを広河さんの写真を見させていただくことで実感しました。”基金”の方々がチェルノブイリの子どもたちを一時的にも転地避難させたようなとりくみを、私たちは福島でもやっていく必要を感じています。(60代)

福島県の住民の避難を優先すべきだ。(40代 男性)

過日、広河氏の講演を聞いた。チェルノブイリにかかわる映画も観た。そして福島の事故、被曝の問題は「低線量の内部被曝」という極めて大きな事実がほとんど報道もされず確実に私たち(特に子どもや女性)を襲いつつあるという。広河さん、これからも、もっともっと発信し続けてください。(60代 男性)

福島の今後は、4~5年経たないとわからないのかなと思いました。(30代 男性)

涙が出る写真です。(50代 男性)

チェルノブイリ事故後の住民たちへの健康管理と食べ物についての指針などがもっと広く知られたら、今の福島の人々にとって有意義と思うが、あまり報道されていない。福島の子どもの栄養システムや放射能のない地域への移動学級がシステム化されるといいと思う。(60代 女性)

自ら行動し、情報を伝える広河隆一さんにあこがれています。ツイッターではいつも情報をチェックしています。(20代)

このような事実はもっと多くの方に知られるべきだと思います。病気にかかったり亡くなる方もいるようですが、そこに暮らし続けまだご存命の方もいるのは安心してしまいました。(20代 女性)

何か力になれることは無いかと考えつつ、1年が過ぎました。今後もしできるだけ、少しずつですが、活動に協力できればと思います。(30代 男性)

一歩一歩がんばりましょう!(40代 男性)

チェルノブイリの惨状、特に甲状腺ガンで亡くなる子どもの写真に胸が痛かった。福島でもこのような大事故が起きたのに、政府は原発再稼働させようとしていることに怒りを感じざるを得ない。広河隆一氏の長年の真実を追う姿勢を尊敬します。(40代 男性)

チェルノブイリ事故の後、食品のことや子どものこと、気になることはあったが、本橋成一さんの映画等を観たり関心はあるつもりだったが、対岸の火事だったということに自覚した。福島の事故が起きて、目を覚まされた気がする。脱原発を働きかけて続けていきたい。(50代 女性)

チェルノブイリの住民が経験してきたことは福島の住民もこの先経験していくことになるでしょう。テレビ・新聞はほとんど断片的にしか目にしないので、マスコミが現在福島第一原発や放射線被害についてどんな報道をしているか分かりませんが、福島第一原発の収束宣言は半永久的にないんじゃないでしょうか。(40代 男性)

福島のことを知るためにはまずチェルノブイリの事を少しでも理解しなければと思っていた折、今月の新聞で知りました。ご苦労さまです。(70代 女性)

福島市、郡山市に住む人たちのことを考えると、罪の意識にさいなまれます。分かっているのに私には何一つできない。いずれそのツケを私も払うのだろうと思います。(40代 男性)

今さらながらもっと見たいです。(50代)

忘れてはいけないこと。それ以前にフクシマのことをちゃんと知っていないのだと思いました。(50代 女性)

先日三春に行ってきました。法事で小さな子どもたちは初めておじいちゃんの家に来たといっていました。ママ達はあまり外で遊ばせられなくて気の毒です。子どもたちも思い切り外で遊ばせてあげたいです。早くしてあげてください。(70代)

もっと福島情報が知りたかった。(60代 女性)

知らずにいたことは罪です。育てたジャガイモを孫に食べさせられないおじいさんは悲しすぎる！夏休みにはおじいちゃんのトウモロコシを食べて幸せな時を過ごした息子や娘を持つだけに....(70代 女性)

実物の写真で見るといろいろなことがよくわかってきました。ありがとうございます。(70代)

放射能の事実を政府は正確に国民に伝えるべきだ。と同時に、我々も知る努力を怠ってはならないと思った。(50代 男性)

ベラルーシは以前より十分知っています。チェルノブイリだけの問題でなく、日本も同じになりました。ほんとうに残念でどうすることも、手が出ないのか苦しい限りです。しかし、またこんな事故が全世界におこらないようにするためにも、脱原発も訴えていきたいと思っています。共にがんばっていきましょう。(50代 女性)

講演会(22日)にはこれないので今日きました。(4月21日)これから小出さんの話を聞きに行きます。ヤセ馬の姿は哀れでした。3号機の壊れ方がひどいですね。東電、マスコミ発表の写真、記事は信用できません。ストレステストは住専、金融危機の時にもいわれていた。金子勝氏がデジャヴとっています。信用、信頼が失われることが、パニック恐慌というのですね。「ショックドクトリン」を読んでいる最中です。(50代 男性)

26年たってもまだ我が家に帰れず、いつまでもその代償を背負っていかなければならない人たちに何と言ってよいか解らない。3.11があつたが東京でのんびり生活していけるのを幸せに思う。(70代 女性)

チェルノブイリ原発事故の後、少しだけ現地の子どもを支援していました。福島の子どもたちや妊婦さんのことを考えると胸が痛みます。沖縄、球美の里、支援しています。(50代)

とても貴重な展示と思います。これからもがんばってください。(20代 男性)

沢山の人に見てもらいたいですネ。(60代 女性)

たくさんの人に見る機会があるとよいですね。久米島、カンパを募るつもりです。ともかく、何でもやれることをしなくちゃ、と思います。暮らしと地球を守るため。(60代 男性)

チェルノブイリの人々の悲しみの像が胸を打ちました。原発3号機があんなにも崩れ落ちてしまい、格納容器はつぶれているのではないかと恐怖に駆られました。(60代)

他の写真展で見たこともあるが、何度見ても「人間の欲望の果て」「他人に苦難を押し付けて、その電力で楽々とした生活をしている人間」「自分自身も)つくづく「原子力」は人間

の手には負えないエネルギーと思う。(60代 男性)

チェルノブイリの悲劇は2度と起こしてはいけないと思います。(70代 男性)

福島のことを日本人としてしっかりと考えていかなければいけない。チェルノブイリから学ぶことをして、これからの未来について考えていきたい。そういう機会を写真展、しかも無料で開催されることは多くの人々にとってそのきっかけになり良いと思います。ありがとうございます。(30代 女性)

新聞を見てきました。私の出身校と出身地双葉の写真展があるのを知ってきました。時間がなく講演会には出られませんが、またの機会に広河さんの講演を聞きたいと思います。(40代 男性)

今後の子どもたちが大変心配です。(60代 女性)

双葉町の整備された道路と、人が住めない町であるというのがあらためて「心」に重かったです。浜岡原発の写真も初めて見ました。見せたいです。(50代)

TVからは伝えてもらえない真実を見せていただいた。(60代)

写真の横に地図があれば良かったと思う。(60代 男性)

本日(22日)は写真展の最終日とのこと、残念です。また場所を変えてどこかをお願いします。(70代 男性)

チェルノブイリ事故で心を痛めてきましたが、まさか日本で起こるとは思いませんでした。フクシマがチェルノブイリになってしまいそうでこわいです。子どもたちには保養が必要です。実現したいです。(60代 女性)

原子力なんて使いたくないですね。(20代 女性)

これからもずっと続く福島の問題に心を寄せていこうと思っています。(50代 女性)

広河さんの写真にはいつも現場の精神が伝えられていて心動かされます。(60代 女性)

社会、自然環境の汚染は止まらない。地球終焉に向かうノアの箱舟に進行している。(70代)

さきほどリバティタワーで広河さんのお話をききました。3.11 直後、広河さんが現地へとんだのを知り、頭が下がる思いでした。やはり下痢など放射線障害が出ていたようですが、お体に気をつけてご活躍ください。人々のために。(50代 男性)

福島の学校運営の基準値 3.8 が「死の街」プリピャチと事実上変わらないことに言葉がありません。ナロジチ地区モテキ村コルホーズで、飲んではいけないミルクを普通のミルクとミックスしていることに驚いた。(50代 男性)

”原発オリンピック”(オリンピックという言葉がふさわしいかどうか分かりませんが...)を開きませんか?この子ども基金が呼びかけませんか?福島の事故があったから、全廃に踏み切った国もありましたし、世界が動きました。その後の反応を発表しあう場を作りませんか?今後も継続して経過を報告しあう場を設けませんか?4年に1度原発問題で世界が集まりませんか?

最終日(4/22) 講演には間に合わなかったのですが、展示は見せていただきました。映像と下の解説で、現地の一部の様子が分かりました。観ることができたのは一部であり、年代も前のものであったとしても、これは歴史の真実を語るものとして観ることができました。「3.11」以後、私自身、これまでいかに原子核エネルギーの問題(科学としても兵器としても戦力としても)に、無知のまい進してきたかを思い知らされました。これまでその社会の先端で正社員として働き、子どもを育て、定年後に少しずつ勉強を始めましたが「文学」-特に記録文学作品を読む中で労組活動家に会いました。彼はチェルノブイリの子もたち(ガン患者でした)を(当時「世界労連」の運動の中で)日本に招待した時にその子等を接待しながら彼らの行く末を案じたと言っていました。彼もまた、その後の自らの不勉強を恥じて暮らしたそうです。私は彼にも今日観せていただいた展示会のことを知らせましたので、彼自身も「お茶の水」まで来たかもしれません。私もこの彼も長い年月職場の労働者として、その時は自分の趣味として自らの労働の実態を記録してはいました。そして今、次の世代に本当に1人の人間として生きる尊さを引き継いでゆく年代になった今、実のところ何をする必要はあるのか?を暗示されたような気がしています。(70代 女性)